

(株)西村金属

小さなこまに光る技術

鯖江「回す座」全国大会挑戦

町工場が自社技術で作ったこまを対戦させる全国大会に、鯖江市にある眼鏡関連企業の若手社員らのグループが県代表として出場した。惜しくも初戦で敗退したが、出場者は「福井の地場産業の技術をPRできた」と手応えを感じている。

(古谷祥子)



①県代表として出場した企業の社員ら②鯖江市丸山町で③漆器や眼鏡製造技術で作ったこま(鯖江市回す座提供)

「地場産業PRできた」樹脂製に個性豊かなタン子漆器



大会は、全国の中小企業のものづくり技術をアピールする目的で開かれている「全日本コマ大戦」の一環。初の団体戦が今月六日、長野県で開かれ十三都府県と一団体、一大学の十五団体が出場した。「鯖江市、福井県の技術をPR」しようが、三連勝して場を盛り上げたが、最終的に三勝五敗で敗れた。代表「鯖江市回す座」を結成。灰皿をかたどったタン子製、赤い色彩がきれいな樹脂製、

「目立つことが目標だったので満足」と手応えを感じた様子。監督を務めた飛山昌久さん(三)は「こま遊びの中で、みんながよい物を作りたいと研究し、技術力の向上につながっている。工夫を加えてまた挑戦したい」と話している。

黒檀に花柄の蒔絵を施した「漆器コマ」など、個性豊かな五つのこまを作った。

大会は、団体が五つのこまを対戦させる勝ち抜き戦で、茨城県代表との初戦に臨んだ。重量がある金属製の相手こまにはじかれ、動きを止められるなどして三連敗。四番手で出